

横濱正金銀行

マイクロフィルム版 全7集

編集：武田 晴人（東京大学教授）
出版・発売：丸善株式会社

（表示の価格はすべて税別です。）

16ミリマイクロフィルム 227リール セット特価¥4,540,000

第1集：全19リール（重役会 12リール 総会 2リール 支店長 5リール）	¥437,000
第2集：全33リール（要録）	¥759,000
第3集：全36リール（考課状・半季報告 18リール 監査・決算諸表 18リール）	¥828,000
第4集：全25リール（諸願伺 14リール 指令・諸官衙 11リール）	¥575,000
第5集：全18リール（通達・通報）	¥414,000
第6集：全33リール（行報 9リール 調査資料ほか 3リール 岸資料 21リール）	¥759,000
第7集：全63リール（大蔵省 53リール 外務省 2リール 日本銀行 8リール）	¥1,449,000

明治13年、外国為替・金融の専門銀行として誕生し、爾来67年間に亘り波乱と激動の時代を刻んだ横濱正金銀行の歴史を語る未公開行内資料のマイクロフィルム版。横濱正金銀行の実質的な後継銀行である東京銀行が1980年代に公刊した「横濱正金銀行全史」（全6巻7冊）編集の基礎的一次資料であり、いずれの資料も本出版を通じて初めて全面公開されるものです。

収録資料例

監査役要録：1921年「常勤監査役執務規程」が定められて以降の監査役の関与した会議および提出意見の極秘記録。大蔵省監理官および日銀の正金担当理事が出席した重役会の議事録であり、頭取・副頭取が毎半季定期株主総会に先立ち、当該半季の営業成績その他につき説明するほか、1936年以降は内外の金融情勢・特殊取引先への融資状況・営業全体の成績・見通しを記録している。

頭取席要録：頭取と関係各店支配人との往復電信で、重役室、頭取席部（課）長、内外各店支配席に限り配布された極秘プリント。

決算関係資料：明治13年の営業第一期からの実際考課状（営業報告）のほか、大正9年以降、行内資料として作成された半期決算報告を収録している。営業に関わる計数の基礎的な資料。

諸願伺・通達・行報：大蔵省・日本銀行などの諸官庁との往復文書を中心とした資料綴、並びに本店から行内各支店に向けて発信された重要文書の綴を収録している。政策的な課題に正金がどのように対応していたかを知ることのできる文書資料。

岸資料：旧行史の継続編集を意図して岸主任が収集した資料群。

単に一つの銀行の歴史に止まらず、わが国の明治以降の対外金融史を詳細・網羅的に示す基本資料の復刻であり、為替金融の諸刻面を明らかにするほか、組織の機構・人事・諸事務規程、あるいは銀行全体に関わる業務上の法律問題・内外商慣習・事務手続き・注意事項・主要取引先に関する業況、営業成績概観などが明らかとなります。

未公開資料に見るその創立から閉鎖まで

横濱正金銀行

マイクロフィルム版



編集：武田 晴人（東京大学教授）

全227リール セット特価 ¥4,540,000（税別）

“生みの親”大隈重信、“後見役”福沢諭吉、“育ての親”松方正義、と称され、明治末期には後に日銀総裁、大蔵大臣、総理大臣をも歴任した高橋是清を頭取とするなど、日銀とともに国家財政と内外金融の要路を占めた横濱正金銀行の足跡を精緻に記した記念碑的歴史史料の復刻

出版・販売  丸善雄松堂

 **MARUZEN-YUSHODO**

丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 開発部 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町10-10

Tel: 03-3357-1449 Fax: 03-4335-9419 Email: archives@maruzen.co.jp http://myrp.maruzen.co.jp/

May2017

近代世界市場の構造と展開を解明する垂涎の資料

東京経済大学教授・東京大学名誉教授 石井 寛治

かつて山口和雄・加藤俊彦両先生とともに『両大戦間の横浜正金銀行』を執筆したとき膨大な行内資料の山と格闘したが、ちょうど『横浜正金銀行全史』の編纂中だったことも影響して、最高機密に属する資料については遂に閲覧できなかった苦い思い出がある。この度、所蔵者の東京三菱銀行のご好意により、われわれも閲覧できなかったものを含む基本資料が全面的に公開され、マイクロフィルム出版されるという。まさに快挙である。

後発工業国が世界市場で先進工業国に伍して活躍するためには、工業生産の発展と貿易・海運・保険会社の整備だけでなく、外国為替を扱う金融機関による強力なサービスがとくに重要であった。日本政府・日本銀行との緊密な連携のもとに発展した横浜正金銀行は、香港上海銀行やチャータード銀行あるいはインターナショナル銀行(のちナショナル・シティ銀行)と激しく競争しつつ、とくに日本商社の貿易金融のために尽力することを通して日本経済の国際競争力を高めていった。

近代世界市場の展開を構造的に分析する上で、これらの国際為替銀行についての実証研究は重要な戦略的位置を占めるが、例えば香港上海銀行の日常的な為替金融については資料がほとんどなくなっており立ち入った研究はもはや不可能だといふ。それ故、横浜正金銀行のこれらの行内資料を使った詳細な分析がなされることは、近代世界市場の構造と展開を把握しようとする世界の経済史学界に対しても大きな貢献となるであろう。

新たな横浜正金銀行史のための資料

慶應義塾大学教授 玉置 紀夫

横浜正金銀行(現・東京三菱銀行の一部。以下正金と略記。)は、2000行に余る我が国近代金融史上の銀行の中でも、もっとも行史と資料に恵まれた銀行である。同時に正金は、金融史研究者の注目をもっとも集める銀行である。この2つの事実は、正金が我が国近代金融史、経済史、政治史上、見過ごすことのできない重要な役割を演じてきたからである。

例えば、正金の成立と機能なくして日本銀行の成立と兌換銀行券の成功裏の発行はなかったであろう。正金は日銀の前提なのである。正金は発足後1年以内にロンドンに出張所をもうけた。この店舗は1884年に支店に昇格したが、この正金ロンドン支店に置かれた在外正貨は、やがて日本経済の健全さを計るバロメーターとなった。第一次世界大戦で日本経済が急成長し、日本軍部が対アジア侵略に積極的になると、正金はその兵站線上で資金調達のための不可欠の機関という役割を担わされた。正金は、近代日本のそれぞれの発展段階で枢要の役割を課され、それを遂行してきたのである。

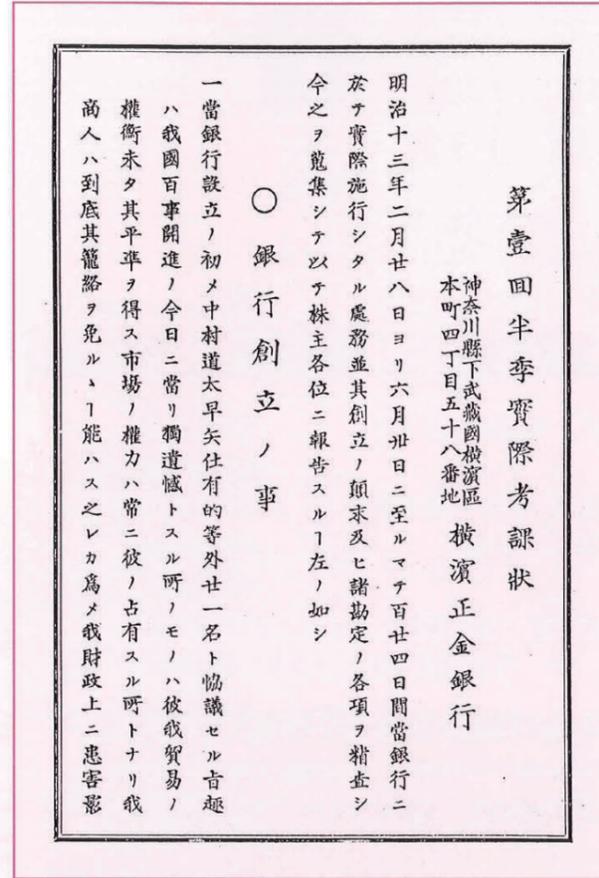
正金がこうした役割を演じたことについては、研究者の間で合意が成立している。にもかかわらず、正金についてはなお重要な局面について不明の点が多数未解明のままである。例えば、これほどに重要な正金を誰がどのようにして発案し、創設したのか、それに大蔵省はどのようにかかわっていたのか。正金ロンドン支店と日銀ロンドン支店はどのように連携してきたのか。正金ロンドン支店は日本興行銀行やその他の国策金融機関とどのような関係にあったのか。1930年以降、正金はどのように変質したのか。変質してしまったのであれば、1941年の太平洋戦争開戦前夜、正金ロンドン支店の人々の開戦回避の努力はどのように説明されるのか。

今般マイクロ・フィルム化される資料は、以上の点に解答を与えるとともに、新しい横浜正金銀行史執筆を可能ならしめるであろう。

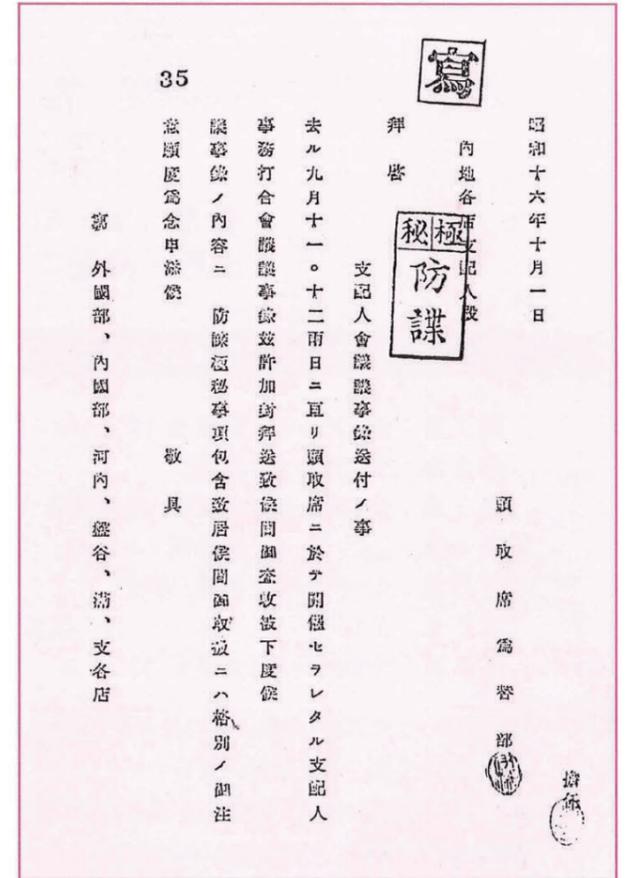
これまでの研究水準を飛躍的に突破しうる資料の出版

東京大学教授 伊藤 正直

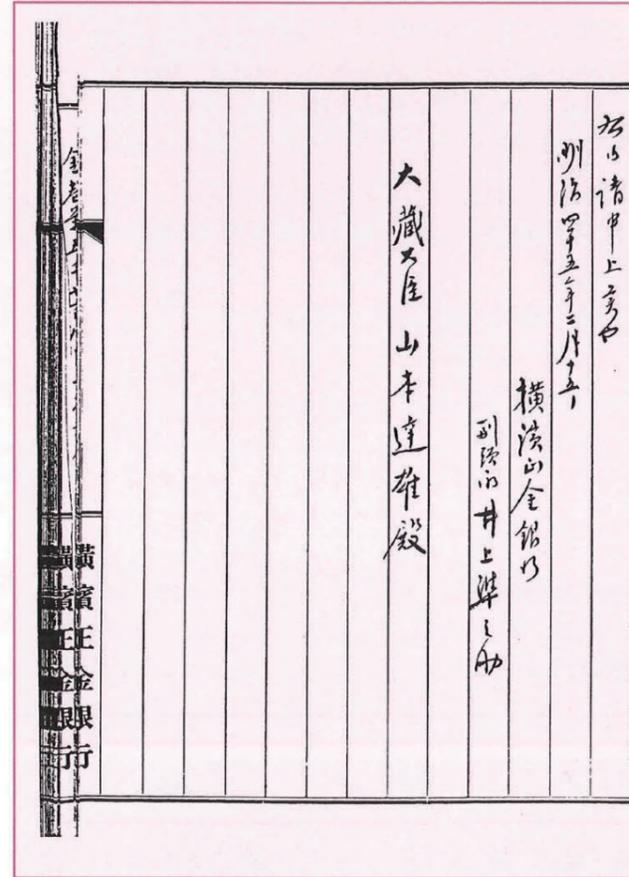
世界3大外国為替銀行のひとつといわれた横浜正金銀行に係る行内資料については、その存在は一部では旧くから知られていた。筆者もかつて自分の研究や大蔵省『昭和財政史』の編纂に関わるなかで、東京銀行丸の内支店地下倉庫や神田一ツ橋の横浜正金銀行全史編纂室を訪れたことがある。しかし、山口・加藤編『両大戦間の横浜正金銀行』(1988年刊)にも述べられているように、その全貌を知ることは1980年代末になっても困難であった。この度、この行内資料のうちの重要書類が、丸善からマイクロフィルムで出版されることになったという。「監査要録」、「頭取席要録」、「伊藤メモ」、「岸資料」、「指令・通達綴」などは、行内資料のなかでも最重要資料と考えられる。明治期以来のわが国の国際金融市場における位置と動態、為替政策・対外投資政策・外資導入政策など対外金融政策の全体像、戦前における外為銀行の独自の存在形態とその推転など、これまでの研究水準を飛躍的に突破しうる資料の出版を心から歓迎する。



創立の顛末から報告された第壹回半季實際考課状



防諜極秘とされた支配人会議議事録の送付書面



漢洋借款三百万円の調達に関する井上副頭取から山本大蔵大臣への申請状

